



Issue on September 1, 2021

もりこう

VOL.50

発行所：大森学園同窓会
大田区大森西3-2-12
大森学園高等学校内
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
FAX 03(3766)0314
Mail：info@moriko-kai.jp
URL：https://www.moriko-kai.jp/
発行責任者：大谷正勝
編集責任者：広報委員会
題字：山崎正男先生



母校創立80周年記念総会・トークショー・祝賀会が開催されました

令和元年6月29日土曜日 大田区産業プラザPiO



皆様へ

新型コロナウイルス感染症流行により令和2年春より活動を中止していた為、この『もりこう50号』は原稿依頼をお願いした段階で編集できない状況になりました。その為、令和2年3月頃までに頂いていた原稿や内容で製作しております。原稿を寄稿して頂いた方には製作が遅れ大変お待たせ致しました。

皆様のご健康と感染症の早期終息をお祈り申し上げます。



出演者
 チャンカワイさん
 （お笑いコンビ Wエンジン）
 プロカメラマン 須山貴史
 （母校昭和56年電気科卒業生）
 小森谷徹さん
 （キャスター・新聞マイスター・司会・進行）

トークショー

同窓会 母校創立八十周年記念
 トークショー・祝賀会報告

祝賀会



▲ご参加頂いた旧職員の先生方



▲挨拶をする理事長 米澤正倫先生



▲祝賀会の様子



▲司会はトークショーに引き続き小森谷徹さん



▲司会の小森谷さんと榎山先生



▲祝賀会の様子



▲記念品は歴代校章をデザインした手拭い



▲御祝の獅子舞



▲鏡開き

母校創立八十周年 記念行事を振り返って

もりこう会（以下本会と称す）が関係各位のご支援のもと、母校創立80周年記念祝賀行事を大田区産業プラザで催してから早くも1年が経ちました。

本稿では記念行事の準備から当日の模様まで、その概要をお伝えしたいと存じます。役員会では開催日の1年余り前に、役員会内にて実行委員会を設け開催要領の策定、祝賀行事の企画、役員の方担等を決める準備活動に入りました。開催にあつてのコンセプトは祝賀行事に相応しい雰囲気のもと参加して良かった、楽しい一時を過ごすことが出来たなど、ご出席いただいた皆さんに喜んでいただけることを第一としました。全体計画の大枠を決定後、会場の確保、イベントの企画、祝賀会の料理等の選定発注、記念品の決定と発注などなど、準備は多岐にわたりましたが役員一同協力して乗り切り、開催日を無事に迎える事が出来ました。当日は恒例の通常総会に続き、記念行事の一つであるトークショーの開演となりました。トークショーはテレビなどでお馴染みのお笑いたレント、チャンカワイさん、OBでプロカメラマンの須山貴史さん、キャスター・新聞マイスターである小森谷徹さんと各界で活躍中の方々に出演頂きました。会場には多くの方が来場されると予想して、椅子を増やすなどの対応をしましたが

充分ではなく、お立ちいただく方々が出るほどの盛況となりました。

ご出演の皆さんは、平生仕事を通してお付き合いの長い間柄とのことで、ショーが始まりますと流石玄人と言っては失礼ですが、息の合った話ぶりとの取り方は絶妙で、終始笑い声の絶えない盛り上がりでの1時間でした。

祝賀会はコンベンションホールを会場に、司会はトークショーに引き続き小森谷徹さんに担当いただきました。会場には80歳台の先輩から最近学窓を巣立った若手の方まで様々な世代の会員の皆さん、学園の理事長、校長両先生、教職員の皆さん、学園に繋がりのある方々など多数にご出席いただきました。

祝賀会は会長挨拶来賓各位の祝辞とつづき、旧職員のご紹介、鏡開き乾杯と進み会食懇談タイムとなりました。各テーブルの配置着席は卒業年度毎としましたので、旧知の間柄でない方でもそこは同窓故にすぐに打ち解け、盃を交わし料理に舌鼓を打ちながら話は盛り上がり、会場は笑顔と興奮の坩堝となりました。この光景は私たち役員にとり誠に大きな喜びであり、しばし至福のひと時となりました。この間母校の現況報告があり、お囃子保存会の皆さんによる祝舞が披露されました。

会場内は随所で恩師、仲間との再会を喜び、在学中の思い出や近況を伝え合うなど話は尽きないようでしたが、宴の時間も残り僅かとなりましたので、締めくくりに出席者一同で新旧校歌を斉唱、お開きとなりました。

最後に本記念行事の遂行にあたりましては多くの皆様のご支援ご協力を頂きました。役員一同紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

令和2年6月記

祝賀会を終えて

母校八十周年記念事業実行委員会

委員長 東野武雄



母校創立80周年記念祝賀会は、昨年6月29日土曜日、大田区産業プラザPIOに於いて、多数の参加のもと開催されました。準備期間は約1年間、イベントの検討や記念品の検討、会場の申し込みおよび抽選などたくさん課題がありました。

実行委員会を立ち上げ、委員会メンバーや関係各位の協力のもと、無事開催されたことに感謝いたします。

当日は例年同様、最初に総会が行われ議事終了後に、記念行事の一つであるトーク

ショーが開催され、立ち見が出るほど盛況でした。

トークショーの後、メイン会場に移動し、祝賀会が開催された。

来賓として学園の役員・職員始め、旧職員、誠和会（PTA）役員方々等、多数のご来席いただきました。

会員諸兄も多数参加頂き、会場のあちらこちらで、語り合う様子が伺えました。

ご多用中にもかかわらず、ご参加くださいました多くの皆様には、厚く御礼申し上げます。

このたび祝賀会を開催するにあたり、学園始めトークショーに参加のチャンカワイさん、小森谷徹さん、須山貴史さん、池上お囃子会、榊マコト、その他、祝賀会の開催にご協力下さいました各位には、幾重にも感謝申し上げます。



コロナ禍と同窓会活動について

会長 大谷正勝



もりこう会（以下本会と称す）では令和元年（2019年）6月、母校大森学園の創立80周年を祝して恒例の通常総会に引き続き、祝賀行事としてトークショーと祝宴を催しました。

祝賀行事には様々な世代の会員の方々、現・旧教職員の皆様をはじめ関係各位多数のご出席のもと、時間の経過を忘れるほどの盛り上がりの中成功裡に終えることが出来ました。

また会員の皆様には、母校教育環境の更なる充実に資する募金へのお力添えをお願いいたしましたところ、多くの方々から心温まるご協力を賜りました。ここに一連の祝賀行事に寄せられた皆様のご厚情に、役員一同心から御礼を申し上げます。

ところで原因不明のウイルス性肺炎患者の存在が、中国からの情報として新聞等で

伝えられたのは本年（令和2年）1月と記憶しています。その原因と言われる新型コロナウイルスは、瞬く間に地域、国を超え僅か数ヶ月で地球を覆いつくす程となり、3月世界保健機関（WHO）はパンデミック（世界的大流行）と認定しました。

国内でも令和2年に入ると、このウイルスによる感染症患者の存在が確認され2月にはクルーズ船での集団感染発生などにより、国は感染症拡大抑止対策として、諸活動の自粛、中止を要請、学校は休校となるなど、僅か数か月前には、誰もが嘗て想像したことのない状況に置かれることになりました。これにより多方面で経済活動は停滞、縮小を余儀なくされ、その影響は雇用にも大きな影を落すこととなりました。さらに3月にはご承知の通り、東京オリンピック・パラリンピックの開催延期が発表されました。

役員会は元年10月から令和2年度の会報作成、総会開催等の準備に入っていました。この状況に鑑みて、安全安心を優先するために2年4月より活動を休止しました。人類と感染症の歴史でよく知られているのは、14世紀にヨーロッパを襲ったペストでしょうか。20世紀以降のウイルスによる主な感染症は、100年ほど前の1918

年から20年にインフルエンザの世界的な流行となった所謂「スペイン風邪」で、世界の30%以上の人が罹患し、日本では凡そ40万人が、世界では5千万人以上の方々が亡くなったといわれています。

その後、新興感染症としてアフリカで1970年代から断続的にエボラ出血熱が、2002年から2003年に香港を中心にSARS（重症急性呼吸器症候群）が、2012年にサウジアラビアで確認された後に、中東諸国を中心にMERS（中東呼吸器症候群）が流行しました。

このように人類は何度も感染症と闘い、大きな犠牲を払いながらもそれを乗り越えてきました。

この度も世界中の人々が、大きな負担と犠牲を強いられています。未だに収束は見通せませんが、過去の感染症を振り返ることで安全安心の日々に繋がればと、少々記してみました。

最後に本会活動の早期再開を願いつつ、会員各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。

令和2年4月19日記



▲80周年記念総会の様子

多様性の時代へ

校長 畑澤正一



「もりこう会」の皆様には、日頃より本校の教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。今後とも卒業生の皆様のご支援のほど宜しくお願い致します。

「多様性」という言葉を耳にする。産業界では「ダイバーシティ」という言葉に置き換えられて性別や年齢、国籍等の多様な人材や働き方を認め、活用することとある。「多様性」が求められる第一の理由は、少子高齢化時代に産業労働人口が減少する中、女性や高齢者、障がい者、外国人等の多様な人材を雇用し、「マンパワー」を確保する必要に迫られているためである。第二には、企業間競争の激化により、多様な能力を得る必要がある、多様な人材を受け入れることが必須となっているためである。故に産業界は、世界と伍していくために生き残りをかけ、多様な人材の積極的な受け入れに取り組んでいる。他国の文化の流入や、日

本文化との価値観の違い等、幕末から明治期にかけての「欧米化」や、太平洋戦争直後の「民主主義化」に匹敵する大波が我が国を襲っているかのようである。ヨーロッパではEUの拡大や中東諸国等からの移民や難民を原因とする様々な問題で混乱の危機にあり、アメリカにおいても同様の状況であろう。

「多様性」を辞書で引くと、人種・国籍・宗教・障がい・年齢・性的志向(LGBT)等々枚挙にいとまがなく、また「いろいろな種類や傾向のものがあること。変化に富むこと。生物の多様性を保つ。」とある。私たちは今まで学校や社会生活において画一的な価値観にこだわってきたといえる。多様性を受け入れるとは、自分と異なる点を受け入れることなのだろう。今、私達に押し寄せている大きな波を受け止めることができる程の成熟した社会になっているか不安である。今後、教育現場に求められるのは、価値観の異なるものを受け入れることができる感性を育てることであろう。

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(ブレイディみかこ著)を読む機会を得た。それは英国の「元底辺中学校」に通う自分の息子の日々を記したものである。そこに書かれている「異国に暮らす人の話」を「私達一人ひとりの話」として受けとめる感性が求められている。無知による先入観や偏見、差別意識から自由になることは困難ではあるが、人間には知性と想像力が備わっているので、それをクリアできると信じる。

あの先生は

今

芳賀勝則



同窓生の皆さん、こんにちは。本人は、つい先日のように思っておりますが、もう42年間も「もりこう」に勤めている芳賀です。あのころは、「もりこう」だった通称が、今では「森学」に代わりました。学校名も「大森学園高等学校」に代わりましたが、ついつい「もりこう」と言ってしまう世代ですが、一番印象に残っている生徒は、途中で退学してしまいました。20年程してから「単位取得証明書が欲しい」と言ってきたことでした。「何で今頃？」と思い聞いてみると、「好きな人ができて結婚を考えている」とのことでした。「おめでとう」と言うと、「もうでもないんです」との意外な答えでした。理由は、相手の父親から「高校も出ていない奴に大切な娘をやるるか！」と言われた

ようです。「一時の迷い」で高校を辞めてしまったことが後々「こんなに悔いが残るとは・・・」。だから、これから「働きながら定時制高校に通います。高校卒業がこんなに重たく感じる時は・・・」その後の報告は受けていませんが、きっと幸せな生活を送っていることと思います。他にも数多くの卒業生が居ますが、クラスとして卒業していった生徒や、部活の部員として卒業していった生徒らが、学園祭や「もりこう会」の総会などに参加して、顔を見せに来てくれることがとても嬉しいです。今現在のわたしは、雇用延長で令和3年3月まで在職期間があります。が、その後何をするか未定です。もしかしただけ、ボケが始まり街を徘徊しているかもしれない。「高齢ドライバーによる××」で新聞やニュースで騒がれているかも…。そうならないように、気を引き締めつつ、残りの人生をエンジョイしたいと思えます。

私の元から巣立っていった卒業生とこれから巣立つ諸君が「悔いの残らない人生を送れるように陰ながら応援します。ガンバレ!!



卒業生 便り



思い出

塚本 清彦



もりこう会会報発行50号おめでとうございます。
発行に携わっている役員の皆様お疲れ様です。

さて、旧職員だよりということで原稿依頼をいただきましたが、30年以上も前に僅か5年だけの勤務でしたので、辞退も考えましたが思ったことを書かせていただきます。

昭和55年4月、電気情報系1年4組（1ED4）出席番号41番として入学しました。大森工業高校を志望した大きな理由はスリングをやりたいからからです。

当時はまだまだマイナーなスポーツでしたので、競技人口も少なく頑張ればチャンスが広がる部活でした。夏・冬・春に

合宿を行い、楽しい青春時代を過ごしました。

やりたくて入部したスリング部で3年生の時はキャプテンになりましたが、戦績はイマイチでした。しかし、その時に養った体力・精神力はいまだに役立っています。

世間では横浜銀鯉の『ツツパリ・ハイスクール・ロックンロール』が流行り、歌詞が森工生の生活とダブっているように思え笑ったのを憶えています。

3年生の2学期就職活動が始まった時、他の級友たちと同じように求人資料を見て就職先を探していたところ、担任の末吉先生より電気科の実習助手になって2部の大学へ行かないか？と声を掛けていただきました。進学は全く考えていませんでしたが、折角のチャンスでしたので推薦をいただき進学しました。

仕事場となった電気科・情報技術科職員室は古い校舎に有り、板張りの廊下がギシギシ音がしたのを憶えています。

『味噌汁組合』といって昼食時に若手が味噌汁を作って電情科のみんなで食するというシステムがあり、それはそれで楽しい思い出でした。

在職中に実習棟が新築され、新しい環境で気持ちよく仕事をさせていただきました

した。
体育館・格技場の新築もほぼ同時期で、新しい道場で後輩たちと楽しく汗を流したことも思い浮かびます。

大学を4年で卒業し、そのタイミングで一般企業へ就職することも考えましたが、長い人生寄り道して実習・部活の手伝いするのも有りだと思い、卒業後も1年延長勤務しました。

8年かけて高校を卒業したような森工生活でした。

卒業生より クラス会 報告

2017年度卒業3年普通科7組同窓会を令和2年2月22日に蒲田にて実施いたしました。卒業生36名中26名が参加し、近況を報告しあいながら楽しい時間を過ごしました。成人式を終え、一回りも二回りも大人になった友人と懐かしい時間を共有でき、参加者全員にとって最高の日となりました。



変なもので、自分が退職した時点のまま頭の中では時計が止まっていて、いつでも学校へ行けば当時のままの先生方が居てくれるような錯覚があります。

去年、初めて同窓会のイベントに参加しましたが、当時と変わらない先生方とお会いできとてもうれしく思いました。

最後に、公私にわたりお世話になった柏木先生がご勇退とお聞きしました。森工生活では柏木先生との思い出が一番濃く残っています。ありがとうございました。

令和元年度進路報告

進路指導部長
尾島 覚

よりこう会の同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で、各方面でご活躍のことごとくご推察申し上げます。進路指導部より、令和元年度卒業生の進路状況をご報告させていただきます。

今年は全体で286名が卒業しました。就職14%、4年制大学50%、専門学校23%

普通科進路状況

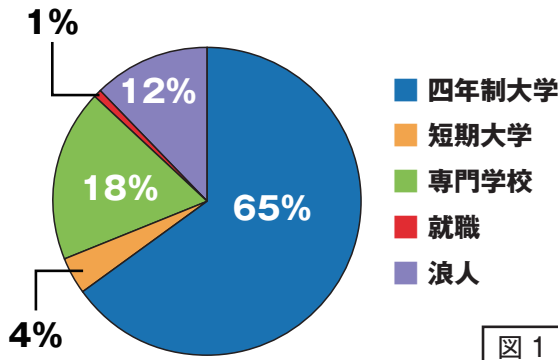


図1

工業科進路状況

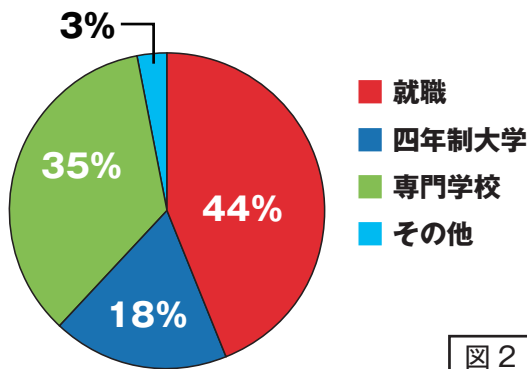


図2

という結果でした。普通科は194名の生徒が卒業しました。大学65%、短大4%、専門学校18%、就職1%、という結果でした。(図1) 工業科は92名の生徒が卒業しました。就職44%、4年制大学18%、専門学校35%という結果でした。(図2)

表1

国公立大学		人数
東 京 海 洋 大 学		2

私立大学	人数	私立大学	人数
慶 応 義 塾 大 学	1	日 本 大 学	10
上 智 大 学	1	東 洋 大 学	7
東 京 理 科 大 学	2	駒 澤 大 学	5
青 山 学 院 大 学	1	専 修 大 学	9
明 治 大 学	2	北 里 大 学	1
法 政 大 学	5	獨 協 大 学	1

今年は、昨年以上に大学による定員の厳格化の波に押し寄せられてしまう結果となりました。先生方のご苦勞も実らず、昨年の実績を下回る結果となりました。今回の事を受けて、改めて基礎学力の大切さを生徒たちだけでなく我々教員も知ることにしました。来年度は基礎学力をアップすることを目指し、生徒たちと共に力をつけていこうと考えています。

就職では、機械関係でジャパンマリンユナイテッド、自動車関係で三菱ふそうトラック・バス、ケーユーホールディングス、電気関係で、関電工、関工ファシリティーズ、鉄道関係で京急電機、京王設備サービス、東武エンジニアリング、その他として共立信用組合などへの合格者が出ています。

今年度も「生徒のための進路指導部」として、生徒たちの夢実現の手助けをさせていただきます。と思っています。



令和2年度 クラブ活動報告

運動部



陸上競技部

今年度は3年生が7名、2年生が11名、1年生が8名で活動しました。陸上競技には、短距離・中長距離だけではなく、跳躍・投擲・ハードルといった様々な専門種目があります。みな各々の専門種目に分かれながらも、互いに切磋琢磨してきました。主な成績として、男子砲丸投げと男子やり投げで都大会出場を果たしました。

限られた練習環境の中で、工夫してトレーニングに打ち込んでいました。冬季トレーニングでは、砂浜や近隣の公園まで足を運び、そこからできるトレーニングやどうすれば練習の質をあげられるか考え、生徒たちもメニューを作成していました。休日練習では競技場へ足を運び、専門的な技術トレーニングや走持久力を高める練習を取り組みました。

来年度は1人でも多く都大会出場やさらに上位の大会に出場できるように努力していきます。今後ともご声援のほどよろしくお願いいたします。

テニス部

今年度は3年生が4名、2年生が3名、1年生が12名で活動しました。3年ぶりに女子生徒が入部しました。男子とも少しずつラリーが出来る様になっており、期待しております。まだ3名で団体戦に出場できておりません。来年度何人か入部してくれたらと思います。

3年生最後の公式戦では2回戦進出でしたが、なかなか上位に食い込むことがむずかしいですが、頭を使い自分で考え、上級者相手に工夫をする生徒は少しずつ増えているように感じます。何年か前に比べて、素直で大人しい生徒は増えてきている様に感じます。しかし、上級者を食ってやろう、負けたくないという気持ちの強い生徒が減っています。もしかしたら、気持ちを表現することが苦手なだけかもしれません。

友達ではなく、互いが互いを成長させ合う関係を作ってくれたらと考えています。

今後ともご支援、ご協力お願い致します。



柔道部

令和元年度は2年生2名、3年生5名と柔道人口の減少に伴い本校の部員も年々減少しています。4月、5月に行われる関東大会予選、インターハイ予選では3年生の活躍により支部ベスト8、東京都大会に進出することができました。

3年生も引退し、新チームでの始動となったところで1年生に女子部員が1名入部。1、2年生合わせて3名での活動になりました。少人数での練習では以前よりも練習内容や質の部分に重点を置く稽古に切り替えるよう心掛けていきました。10月の大田区秋季大会では無段者の部ではありませんが優勝、3位、続く11月の新人戦では無段者の部でベスト8を勝ち取ることができました。来年度新入生を迎え、着実に成長している在校生とともに活躍できる試合をしていきたいと思えます。今後とも応援よろしくお願いたします。

剣道部

今年度は2年生1名、1年生2名(男子2名、女子1名)で活動しました。4月に入部した1年生女子は中学生からの経験者であり、即戦力となりました。しかし、今年度最初の公式戦となる5月のインターハイ予選では、男女共に個人戦1回戦敗退となりました。11月の支部大会では、男子の

男子バスケットボール部

部で団体を組むことができ、昨年度5月のインターハイ予選以来の団体戦に出場することができました。1回戦敗退となりましたが、試合出場という良い経験ができました。2月に行われた昇段審査では、11月に一級を取得していた1年生1名が初段に昇段しました。来年度は2年生となる2名がそれぞれ式段、参段への昇段を目指します。

部員が少なく、全員揃って稽古をすることも少なくはありますが、その中で部員たちは互いに刺激し合い成長しております。卒業生に稽古に参加していただくことも増え、さらなる成長が期待できます。今後とも応援、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

今年度は3年生が8名、2年生が4名、1年生が9名(1名マネージャー)で活動しました。

公式戦は4月(関東予選)、5月(IH予選)、10月(新人戦)に3度あり、親善試合は9月(第7支部私学大会)、2月(大田区大会)に2度あり、それぞれの大会を大きなポイントとして過ごしてきました。

体育館での練習の前には、教室棟や実習棟のスペースをお借りし、筋トレを行ってました。

夏休みの期間では夏休みを5チームに分け、各チーム毎にチームの目標・個人の目標を決め、チームの最後には振り返りをし、

チームとしてPDCAサイクルの実践に取り組みました。

情報があふれているこの時代において、選手各々が主体的に目標に向かって努力できる環境づくりに尽力してまいります。

実のあるミーティング、練習を通じて個人としての成長とチームとしての成長を図ります。

これからも日々練習を重ね、良い結果を報告したいと思えます。

男子バレーボール部

昨年度は関東大会予選で都ベスト8位という結果になり、2年連続関東大会に出場することができました。関東大会では、山梨県代表2位の甲府工業に負けてしまいました。その後のインターハイ東京都予選、春高予選と東京都ベスト8を維持することができました。ここ10年間の間で最高の結果を残すことができました。平均身長は低いものの、スピード、正確性ともに優れている選手が集まり、見ていてとても楽しく、ワクワクするようなバレーを展開することができました。

私学大会では2年連続でベスト8に入ることができ、その結果3月には全国私学大会に出場しました。しかし、新型コロナウイルスのため、大会が中止となり、生徒たちとの楽しみが一瞬になくなってしまいました。しかし、泣き言を言っていられません。まだまだ、高みを目指してこれからも精進

していきますので応援の程よろしくお願致します。

OBOGの方々、練習への参加も心よりお待ちしております。

男子バレーボール部のブログです。よかったら見てください。

<http://blog.goo.ne.jp/ojimadesu/>

昨年度の結果は以下の通りです。

- 関東予選東京都大会 東京都ベスト8位
- 第74回関東大会出場

開催地 (栃木県 小山市)

- インターハイ東京都予選 東京都ベスト8位
- 私学関東大会Aブロック 出場

- 東京都私学大会夏 東京都ベスト4位
- 東京都新人大会 東京都ベスト8位
- 東京都私学大会冬 ベスト8位

- 東京都新人決勝大会 東京都ベスト12位
- さくらバレー (全国私学大会場) 出場

- 新型コロナウイルスにより中止

【顧問 尾島 覚】

女子バレーボール同好会

今年度は3年生が1名、2年生が4名1年生が3名で活動しました。女子バレーボール同好会は、4月の春季大会、5月のインターハイ、8月の夏季大会、11月の新人戦大会、12月の私学大会が行われており、その他にも私学の支部大会等にも参加しています。

選手は、バレーボール経験者だけでなく

初心者もいます。各大会に向けて、選手たちは先輩・後輩の垣根を超えて切磋琢磨しながら、日々の練習に取り組んでいます。今年度は、目標であった新人2部大会(新人戦大会の上位チームが出場する大会)の出場を勝ち取り、成果を残すことができました。来年度は1人でも多くの生徒が入部し、何事にも誠実に取り組むことを大切にすることをチームづくりをして参ります。今後ともよろしくお願致します。



文化部

鉄道研究部

令和元年度は3年生3名、2年生2名1年生8名の合計13名の部員で活動しました。おもな活動内容として学園祭に向けた大型レイアウト製作やNゲージ車両製作部員が持ち寄ったの鉄道模型運転会など、月曜、火曜、木曜の週三回の活動を行いました。毎年参加している全国高等学校鉄道模型コンテストでは「房総の眼福の春」をテーマとし、作品を展覧しました。モデルとなっているのは小湊鉄道月崎駅です。駅舎と桜並木と廃線跡の再現に力を入れました。大会は二〇一校の参加応募があり、本校は「参加賞」「ベストライター賞」を頂き

ました。満足な結果とはなりませんでしたが、部員たちは多くのことを学べたと思います。夏合宿では四国・高松に行き、JR四国の多度津工場を見学しました。合宿にはOBも参加してくれました。学園祭では大型レイアウトによる運転会や鉄道写真・鉄道グッズの展示発表、鉄道ムービーの上映、そして子ども向けのプラレールの展示を行いました。本年もOBの皆様の来校を楽しみにしております。

また、今年度も第12回全国高等学校鉄道模型コンテスト(11月22、23日)の参加を予定しています。応援よろしくお願致します。OBの皆様ご来場をお待ちしています。



■ ロボット研究部

昨年度は夏にWRO Japan 2018の予選にミドル競技で参加し、特別賞を受賞しました。

昨年競技に取り組んだ部員が最上級生となった今年度は、さらに難しい課題に取り組み、エキスパート競技に出場しました。

機体作りもプログラミングも、今まで取り組んできた課題の何倍も試行錯誤を重ねなければ課題を達成できませんでしたが、部員たちはこれまで積み上げてきた2年間の経験と技術を元に、毎日遅い時間まで粘り強くロボット作りに取り組んでいました。

最終的な結果は残念なものに終わりましたが、ここでの経験を部員たちが将来に活かしてくれらると思います。

【顧問 鈴木徹】

■ 囲碁将棋部

令和元年度は1年生がおらず、2年生が1名、3年生が1名と計2名で細々と活動してきました。

主な大会は、将棋部門では春と秋に行われる全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選の個人戦に参加しています。昨年の春の大会では2年生の生徒が、有段者の部で4勝1敗となり、惜しくも入賞を逃しましたが、とても健闘いたしました。普段の練習

では将棋を指した後、必ず感想戦をするようにしています。この方法はプロの棋士が対戦後、行うもので、実力をつけるにはとても良いやり方です。

囲碁将棋部では挨拶や先輩、後輩の上下関係などを理解させて社会でも通用する人になれるように指導していきたいと思っています。

これからも、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

■ プラスバンド部

令和元年度は2年生11名、1年生13名の計24名で活動しました。最初のイベントは4月に開かれた「創立80周年記念式典」での演奏でした。緊張しながらも大きなホールでの演奏を楽しんでいました。その後、

諏訪神社のお祭り、体育祭、野球部の応援や「社会を明るくする運動」と、多くの演奏機会をいただきました。夏休みには、吹奏楽の最大イベントである吹奏楽コンクールに参加し、審査を受ける真剣勝負の舞台に立ちました。それ以降も、学園祭、福祉作業所ふれあい祭、ふる浜まつり、紙ひこうきコンテスト、アンサンブルコンテストと多くの演奏の場がありました。例年3月に行っている定期演奏会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により残念ながら延期とさせていただきますが、皆様のご支援により様々な場で演奏ができました。今年度も演奏を楽しむこと、聴いて下さる方々

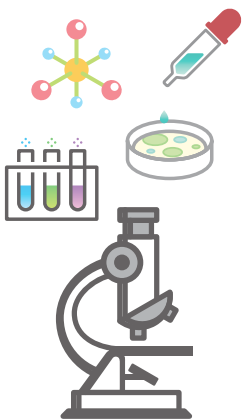
に楽しんでいただくことを忘れず、精進して参ります。

【顧問 石川和弘】



■ 科学研究部

令和元年度は1年生21名が入部し、41名というこれまでにない大人数で活動をして参りました。夏休みには多くの小学生に科学の面白さを発信してきました。川崎区教育文化会館でのイベントには科学研究部OBの大学生を講師に招き、現役部員・OBが協力してイベントを盛り上げました。学園祭では東京大学折紙研究会指導の下、難度の高い折り紙作品の製作を行いました。模造紙25枚を貼り合わせて作った巨大折り紙での作品は圧巻でした。日々の研究にも力を入れており、5部門の研究班それぞれが熱心に実験に取り組んでいます。2つの研究チームに関しては、初の試みとなる英語でのプレゼンの大会にも出場しました。年度末の研究発表会、学会が全て感染症対策で中止となったため発表の機会は例年より少なくなりましたが、今年度の成果を引き継ぎ、次年度はよりレベルの高い研究発表ができるよう今後も活動をしていきます。



放送演劇同好会

今年度は3年生1名、2年生4名、1年生1名で活動しました。今年度は学校行事のナウンスを中心に活動しました。大幅にルールが変わった体育祭に対応するべく、実況アナウンスの原稿を1から作り直し、各競技では教員に解説をお願いしました。また、学園祭の放送では部員が少なかったため、科学研究部に協力を依頼し、二日間の学園祭期間を途切れる事無く放送をお届けする事が出来ました。



美術工芸部

令和二年度の美術工芸部は三年生十一名、二年生二名の部員計十三名、そして六年ぶりに顧問復帰した教員から成る集団でした。コロナ禍のため学園祭や、例年行っている小学校でのボランティアなどもなく、受験勉強で多忙な最上級生が中央展への出品を断念するなど、限られた活動でしたが、集まった時の和気藹々とした独特の雰囲気は以前とまったく変わっておらず、皆さん思い思いに絵を描き、楽しい時間を共有していました。活動とは直接関係ありませんが、その三年生たちは進路決定において、山形大学工学部合格を始めとする、素晴らしい結果を残してくれました。新入生が入部しなかったので彼らの卒業後が心配でしたが、令和三年度は三名の新入部員を迎えることができ、しかも部員が五人ともiPadを持っていて、今後作品の幅が広がることを期待しています。



模型部

令和元年度、模型部は毎週月曜・金曜を活動日として模型製作に励んできました。製作した模型の種類は、『機動戦士ガンダム』関連と『ミリタリー』関連です。製作に当たっては、自由にキットを改造し、自分だけの模型を作り上げました。学園祭では、生徒・OB製作の模型に加えて、生徒が編集したコマ撮り動画を上映しました。コマ撮り動画は、数か月がかりの力作で、非常に高クオリティな作品となりました。令和二年初頭から部員が1人増え、楽しくのんびりと活動しています。現在は新入生の勧誘のために策を練っているところです。部員は2名と少数ではありますが、模型大好きな精鋭ですので、今後とも応援を宜しくお願い致します。



【顧問 田中健太郎】

書道同好会

部員達は、半切(縦136cm、横34.5cm)に七言絶句(28文字)の行草体を制作しています。この難しさは、全体のバランスの取り方にあります。先のサイズの紙に、七言絶句をバランス良く収めるには3行で書くのが望ましく、やってみればわかりますが、潤筆や渴筆を織り交ぜながら28文字をバランス良く、しかも流れるように書くことの、どんなに難しいことか。だから、部員はひとつに紙に向かう一言も発せず、最後の人文字を、それこそ画竜点睛を欠かぬように書き終えるまで、全神経を集中させています。静謐な空間に緊張感までが漂うことになるわけです。こういう経験は、日常的にできるわけではない貴重なものです。なぜなら、書作品そのもののバランスをとることに注力しながら、併せて、自分自身の人間的なバランス感覚までも磨いているからです。これからも書道同好会は内面の錬磨を目標に進んで行く所存です。



【書道同好会 蓑毛伸哉】

同窓会役員紹介

会長	大谷 正勝	昭和36年	電気科
副会長	東野 武雄	昭和47年	電気科
		(総務委員長)	
副会長	山本 隆彦	昭和57年	電気科
		(財務委員長)	
副会長	渡辺 亮	平成14年	電気科
		(広報委員長)	
会計監査	須山 貴史	昭和56年	電気科
会計監査	秋葉 美典	昭和56年	機械科
常任幹事	勝島 憲三	昭和41年	電気科
常任幹事	井上 良男	昭和54年	電気科
常任幹事	十文字 幸雄	昭和54年	情報技術科
常任幹事	須山 健二	平成6年	情報技術科
常任幹事	浅沼 徹	平成7年	電気科
常任幹事	有賀 義孝	平成元年	電気科
常任幹事	西山 慎吾	平成4年	機械科
常任幹事	矢内 英彦	平成5年	情報技術科
常任幹事	根日屋 諒	平成19年	総合技術科
常任幹事	網川 英樹	平成12年	電気科
顧問	菊池 良幸	昭和36年	機械科
		(前会長)	
相談役	神 秀弘	昭和25年	機械科
		(元副会長)	
相談役	武藤 清一	昭和27年	電気科
		(元副会長)	
相談役	大部 幸治	昭和32年	機械科
		(元副会長)	



●役員写真

事務局	梶山 良一	昭和48年	電気科
		(総務)	
事務局	芳賀 勝則	昭和49年	機械科
		(財務)	
事務局	百瀬 浩一	平成4年	電気科
		(広報)	

令和元年6月29日現在

新役員の紹介



平成4年3月 機械科卒 西山慎吾

もりこう会の役員として活動へ参加を始めてから、今年で3年目になります。

平成元年に大森工業高等学校入学、ブラバンド部でトロンボーンを担っていました。顧問は現教頭の安達先生。とてもいい先生です。恩師です。

平成4年に卒業後、大手運送会社の自動車整備士として就職、その後も部下を携えて人の上に立つ立場になる事もなく、極々平凡なサラリーマン人生を送っていた平成29年のある日、安達先生から1本の電話が。「キャリアセミナー講師」の依頼でした。前述の通り人の上に立つ立場でもなく、ましてや人前で講義などしたことがない私。そんな人間が学生の前で教壇に立ち、社会のなんたるかを講じるなど出来るものかと迷いましたが、チャレンジしてみるのも一興かなと思い、また他ならぬ恩師からの頼みでもあり引き受ける事にしました。まあ

案の定、高校生に社会を語る様な内容は用意出来なかつた訳ですが、それはそれで勉強になる時間を頂けたと前向きに捉えています。そして、その時にお会いした会長から役員へのお誘いを頂きました。ですが正直、この時まで私はもりこう会の存在を知りませんでした。およそ30年前、自分がまだ子供だった時代にも、陰で支えてくれた人達が居たなんて思いもしなかった。そんな組織の1員になれたら、大人としてちよつとカッコいいかな、と思い参加させて頂く事にしました。

会社の勤務形態上、役員会に出られない事がありますが、少しでも子供達の支えになれたら、と思います。

宜しくお願致します。

創立80周年記念寄付金報告

本誌では掲載しております

寄付金等目録の贈呈式について

本会では記念行事の一環として、同窓諸兄多数よりお預かりしました寄付金の目録贈呈式を、次の要領で行いましたので報告いたします。

贈呈金額：300万円（金額は寄付金に本会積立金を加算したものです）

日時会場：令和2年2月19日（水）午後5時 大森学園 理事長室

贈呈式：会長大谷正勝より理事長米澤正倫先生へ目録を贈呈しました。

尚、贈呈式は校長畑澤正一先生ならびに本会役員多数の立会いのもとで行なわれました。

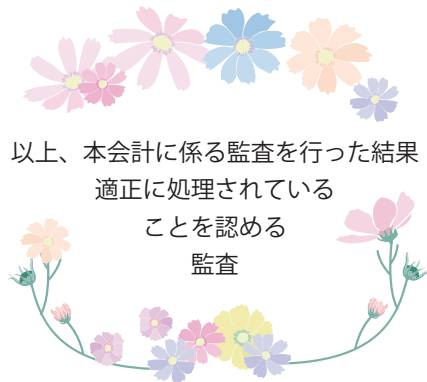
令和元年度 もりこう会 決算書 （自:平成31年4月1日～至:令和2年3月31日）

収入の部 (単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
① 1年生会費収入	1,011,600	1,002,300	9,300	3,331 人月分
② 2年生会費収入	1,188,000	1,175,200	12,800	3,960 人月分
③ 3年生会費収入	2,419,200	2,395,400	23,800	3,456 人月分
④ 寄付金収入	300,000	413,000	▲ 113,000	154 件
⑤ 受取利息収入	3,000	1,923	1,077	普通及び定期預金利息
⑥ 過年度会費収入	0	0	0	
⑦ 雑収入	0	36,000	▲ 36,000	
当年度収入合計	4,921,800	5,023,823	▲ 102,023	
前年度繰越金	2,974,132	2,974,132	—	
収入の部合計	7,895,932	7,997,955	▲ 102,023	

支出の部 (単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
① 設備補助費	0	0	0	
② 行事補助費	200,000	200,000	0	体育祭補助及び学園祭補助として
③ 課外活動補助費	300,000	300,000	0	校友会へ補助
④ クラス会援助費	100,000	30,000	70,000	3 件
⑤ 卒業記念品費	400,000	290,212	109,788	卒業証書ホルダー
⑥ 地域活動補助費	50,000	0	50,000	
⑦ その他の補助費	100,000	0	100,000	
① 会報発行費	1,400,000	1,400,000	0	㈱サンライズ印刷への支払他
② 総会費	600,000	600,000	0	総会時、ケータ (㈱マコト)
③ 卒業生広場	100,000	75,410	24,590	学園祭卒業生広場経費
④ 会議費	200,000	169,350	30,650	
⑤ ホームページ維持費	150,000	100,432	49,568	㈱KDDIウェブコミュニケーションへの支払
⑥ 交通費	400,000	322,000	78,000	役員会交通費として
⑦ 事務局費	50,000	33,074	16,926	通知書類発送切手代
⑧ 慶弔費	200,000	66,500	133,500	お祝い 1 件、生花 1 件
⑨ チャリッジ運営費	200,000	227,710	▲ 27,710	
⑩ 拡大幹事会費	300,000	0	300,000	
⑪ 雑費	50,000	11,638	38,362	寄付金払込手数料他
予備費	100,000	0	100,000	
積立金 ① 同窓会維持積立金	1,000,000	1,000,000	0	
積立金 ② 記念事業積立金	1,000,000	1,000,000	0	
当年度支出合計	6,900,000	5,826,326	1,073,674	
次年度繰越金	995,932	2,171,629	▲ 1,175,697	
支出の部合計	7,895,932	7,997,955	▲ 102,023	



令和元年度 潮の光奨学基金寄付金 (敬称略) (単位:円)

本誌では掲載しております

令和元年度 もりこう会寄付金（敬称略）

（単位：円）

本誌では掲載しております

寄付者の皆様、ご協力ありがとうございました。



会報「もりこう」発送のご案内

同窓会報「もりこう」は発送希望の方並びに卒業後7年間は全員に発送させて頂いております。

令和元年度発行の「母校80周年記念号(49号)」では登録のある方全員に発送させて頂き、今後の発送について希望を記載する返信ハガキを同封させて頂きました。

今後会報『発送希望』の方で令和元年度の返信ハガキを返信していない方はお手数ですが『同窓会ホームページ』にて『発送手続き』をお願い申し上げます。

上記の通り卒業後7年間は発送されますが『会報発送』を希望される方は早めに『発送手続き』をお願い致します。

引っ越し等住所変更がある方も変更手続きをお願い致します。



大森学園高等学校同窓会
もりこう会 ホームページ
<https://www.moriko-kai.jp>



**会報電子版はホームページでも
ご覧になれます!**

※ホームページで以外での手続き希望の方は同窓会事務局まで
ご連絡をお願い申し上げます

もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力をお願いについて

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本年もここに関係各位のご協力により、会報 50 号をお手元にお届けすることが出来ました。

本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。

これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいり所存です。今後とも、よろしく願い申し上げます。

さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。

就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

(同窓会報寄付者名簿への掲載を御希望されない方は、払込取扱票に一筆御記入をお願い致します。)